

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年11月11日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.166】

衆院予算委での松崎氏と田城議員への革マル疑惑追及の審議を徹底検証！

前号では、11月8日の衆議院予算委員会で自民党平沢勝栄議員が岡崎トミ子国家公安委員長に対し、JR東労組元会長の松崎明氏やJR総連組織内の民主党・田城郁参議院議員と革マル派との関係などに関する認識を質したことを紹介した。なお、11月9日の産経新聞(朝刊)は、この質問について以下のように報じている。

岡崎氏 JR東労組・松崎氏は「革マル派」

岡崎トミ子国家公安委員長は8日の衆院予算委員会で、JR東労組の松崎明・元委員長を左翼過激派、革マル派の最高幹部の一人と認識しているかと問われ、「幹部の一人であると思っている」と述べた。自民党の平沢勝栄氏への答弁。ただ、岡崎氏はその後「革マル派創設時の幹部の一人である」と答弁を修正した。平沢氏は「松崎氏の運転手をしていた側近中の側近が、民主党参院議員の田城郁さんだ。ご存じか」とも質問。岡崎氏は「個人の情報に関する事なので、コメントは差し控えたい」と述べた。

松崎氏の運転手を務めた田城議員が革マル派との関係を疑われるのは当然！

本号より、平沢議員の質問についてポイントを解説していきたい。まず、松崎氏について岡崎氏は「革マル派幹部の一人」と答弁、その後、「革マル派創設時の幹部の一人」と答弁を修正し、平沢氏は「創設時でも今でも、変わらないという見方は多いんですが...」と述べた。松崎氏と革マル派との関係については、本情報で詳しく検証してきたところである(No.64~66、104、105参照)。松崎氏が革マル派創設者の一人であり、「倉川篤」のペンネームで副議長を務めていたことは、「JR革マル派43名リスト裁判」で原告のJR総連側が2010年6月30日に提出した準備書面に記載されている(No.135参照)。そして、松崎氏は雑誌対談や裁判証言など各所で「革マル派を辞めた」と述べているが、その時期は一貫していない。警察が作成したとみられる、96年に警視庁が摘発した革マル派「綾瀬アジト」からの押収物の解析資料では、松崎氏を「現在も革マル派の最高幹部であり、組織内では絶対的な権限を有している」と断定している。松崎氏が西岡研介記者らを訴えた「週刊現代裁判」も、これらの事実関係に基づき、松崎氏が「革マル派最高幹部であると信じたことについては、相当の理由がある」と判示した。なお、裁判の一審判決(2009年10月26日)のこうした判断を、控訴審判決(2010年10月27日)も認めている。

そして、平沢議員は、岡崎氏の答弁を踏まえて「(松崎氏の)運転手をしていた、側近中の側近をしておられた方が、今、民主党の参議院議員の田城郁さんなんですよ」と質した。なお、田城議員が松崎氏の運転手であったことは月刊誌「新潮45」(2010年8月号)にも紹介されている(p.32)。田城議員本人も「松崎さんを尊敬しています」と述べているようだ。一方、松崎氏は、新左翼系の対立組織から命を狙われてきた、と自ら述べている。JR東労組元中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)は、松崎氏が北海道に来たときに3日間ボディガードを兼ねて行動をとることにしたことがあり、「松崎氏の身に万一のことがあってはならないと思い必死の思いでいました」と「週刊現代裁判」の陳述書で述べた。松崎氏の運転手とは、JR内革マル派の中では、きわめて重い責任を持つ命懸けの任務だとみてよいだろう。その役割を務めていたのが田城議員なのである。